
愛と哀の流恋情歌

そらまめ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

愛と哀の流恋情歌

【Nコード】

N9561B

【作者名】

そらまめ

【あらすじ】

哀が日頃の鬱憤を晴らす物語です（笑）

梅雨がきた、梅雨がきた、梅雨がきた。雨が降る。何もかも洗い流してくれる、何もかもなかったことにしてくれるかのように雨が頬を打つ。

博士の車はいつものようにエンスト。突き刺さる雨。コナン、探偵団は外に出ることもできず車の中で雨宿り。博士と哀はエンジンを調べるためにレインコートに身を包み、外へ。手の出しようがないことを確認して、周りに泊まれそうなお城や小屋がないか確認して。今夜は野宿になりそうで。

哀は虚空の空を見つめる。どこまでも果てしなく広がる空を。そして自分という世界の狭いこと狭いこと。この世界には果てしない数の人生があり、それを経験する果てしない人々がいる。こんなに果てしないのに……哀は溜め息をつく。

「あなたを愛してしまった…。」

ガラスごしにコナンを見やる。探偵団いつものジト目でしゃべるコナン。哀は全身で未だ勢いの衰えない雨を受け止める。

「あなたじゃなくなつて、他にもいい人はいくらでもいるのよ。」

しかし目を離せない。でも実らない。好きな人には好きな人がいた。切ない。哀とコナンを出会わせたのは黒の組織。哀の家族を奪ったのも黒の組織。哀の心の中でその切なさ、悲しみは限界を突破

し、怒りに変わる。どこまで自分を苦しめ続けるのか。拳が自然と堅くなつてゆく。

「いつかぶつ潰してやるわ…。」

いつそ思いを告げてしまおうか。でも少しでも近付けば、崩れさつてしまいそう。全ての整ったルールを自分がめちゃくちゃにしまつのではないか。哀に言い様もない不安が押し寄せる。だいたいあの人が悪いんだ。自分がここまで愛しているのに気付きもしない。あの鈍感推理少年。

「鈍感なくせに、名探偵？……矛盾してるわ。」

皮肉な笑みをたつぷり浮かべる。足下に転がるは石ころ。左端から名前をつけていく。ジン、ウォッカ………散々黒の組織の面々のコードネームをあげた後、右端の石ころにあの人の名前をつける。そして蹴り飛ばす。左端から順に。怒りを込めて。雨は尚、哀の身体に突き刺さる。

様子のおかしい哀を心配してコナンが傘をさして歩み寄る。ちょうどその頃哀は右端の石ころを蹴り終え、怒りは頂点に達する。

「どうせ実らぬ恋、やまない雨もあるのよ。」

突然の哀の歌声。

「だ、誰の歌だよ？」

「私のよ。文句ある？」

おののくコナン。静かな迫力に押し潰されて息苦しい。いい知れぬ

殺気がコナンを襲う。

満足したかのように車に引き返す哀。取り残されたコナン。延々と降り続く雨。でも不思議な事に哀の心は晴れていた。澄みきっていた。

「実らなくても恋は恋、心の天気は気まぐれなのよ」

おしまい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9561b/>

愛と哀の流恋情歌

2010年10月11日22時06分発行